

三河一色みなとまつり

一色の「おいしい」が満載

ウナギやえびせんべいなどの特産品をPRする三河一色みなとまつり2017が、5月20日・21日に一色さかな広場で行われました。快晴に恵まれた会場では、特産品の販売やステージイベントなどが開催され、市内外から訪れた多くの人でにぎわいました。特に人気だったのは、ウナギのつかみ取り体験。子どもたちはプールの中のウナギを夢中で追いかけていました。えびせんべいの手焼き体験では、多くの人を楽しそうにえびせんべいを手作りしていました。



「オオキンケイギク」一斉駆除活動

貴重な在来種を守るため



「オオキンケイギク」の一斉駆除活動が5月21日、上塚橋付近の矢作川西尾緑地で行われました。西三河南部生態系ネットワーク協議会が主催したもので、市内では初めての取り組みです。明治中期に観賞用・緑化用として日本に持ち込まれたオオキンケイギクは、繁殖力が強く、現在では在来種の脅威となっています。集まったボランティアは、駆除の方法などの説明を受けた後、オオキンケイギクを根こそぎ抜き取って除去。気温が高く、厳しい環境でしたが、貴重な在来種を守るために汗を流し、作業しました。

佐久島でアマモ移植ボランティア

魚の住みやすい豊かな海に

6月10日、佐久島の大浦海水浴場周辺でアマモ移植ボランティアが行われました。今年で16年目を迎えたアマモの再生活動には、島の内外から約200人のボランティアが集結。佐久島中学校の生徒から作業手順の説明を受けた後、群生する藻場からアマモを採取し、麻ポットに入れて佐久島小・中学校前の海岸に移植しました。参加者は夏が一定早く訪れたような快晴の中、気持ちの良い汗を流しながら、島民やボランティア仲間と楽しそうに交流していました。



岩瀬文庫体験講座「和装本を作ってみよう」

和紙と糸を使う温もりのある本



6月4日、岩瀬文庫で体験講座「和装本をつくってみよう」が開催され、老若男女16人が参加しました。日本の伝統的な装丁の本である和装本。今回の講座では江戸時代に最も多く作られた「四つ目綴じ」の本を制作しました。下綴じ用のこよりを作ったり、針と絹糸を使って本を綴じたりする少し難しい工程もありましたが、終始和やかな雰囲気の中、講師と経験豊富なボランティアのアドバイスで、参加者はそれぞれオリジナルの和装本を完成させていました。



トーンチャイムコンサート

柔らかな音色に癒やされる

岩瀬文庫で5月14日、トーンチャイムコンサートが行われました。トーンチャイムはアルミ合金製のパイプをたたいて共鳴させる楽器で、出せる音は1本につき一つ。高音から低音まで曲に応じて使う音の数だけチャイムを使います。息の合った演奏を披露したのは、西尾市アーティストバンクに登録のRAKUDAチャイムクワイアの皆さん。プログラムの最後には、加藤礼子さんによる絵本の朗読と共に優しいメロディーで癒やしの空間を演出し、観客を魅了していました。



第1回わんぱく相撲「西尾場所」

力 自慢の子どもたち、集まれ！



第1回わんぱく相撲西尾場所が5月21日、愛知こどもの国で行われました。愛知こどもの国や名鉄電車の利用促進とともに、子どもたちに礼儀や思いやりを学んでもらおうと西尾青年会議所が主催し、市内の小学生を中心に約70人が参加。自分よりも大きな相手に挑んでいく子や、負けてしまって悔し涙を流す子の姿に、会場へ駆け付けた家族からは拍手と声援が送られていました。今回の大会の優勝者は県大会に出場し、勝ち進むと、両国国技館で行われる決勝大会に出場します。

寺津小学校 泥リンピック

泥だらけで田んぼを楽しむ

5月26日、寺津小学校で泥リンピックが行われ、5年生の児童78人が参加しました。学校近くの水を張った田んぼに、児童たちは大きな歓声を上げながら入り、各クラスの実行委員を中心に「ドッジボール」「ケイドロ」「だるまさんが転んだ」の3つの競技に挑戦。初めはどろどろの足元の感触に戸惑っている様子でしたが、徐々に慣れると勢いよく走り回っていました。転んで全身泥だらけになった子もいて、応援に訪れた保護者と笑顔で記念撮影をしていました。



第37回仁吉まつり

義理と人情に生きた仁吉をしのんで



6月4日、^{にんぎょう}任侠の徒「吉良の仁吉」をしのんで、仁吉まつりが吉良町の源徳寺や福泉寺などで開催されました。源徳寺にある清水次郎長が建立したと伝えられる仁吉の墓前で法要が行われた後、赤い法被を着た吉良小唄保存会の会員など約150人が軽快に鳴子を鳴らし、踊りながら会場内をパレード。仁吉が必勝の験担ぎで食べたといわれる餅にちなんだ昇運餅の無料配布や、仁吉の楽市楽座と銘打った青空市など多彩なイベントが行われ、たくさんの人でにぎわいました。